

2020年度
入学試験問題
(A日程)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/6から6/6まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一 次の文章は、韓国人の筆者から見た、日本文化の特徴について書かれたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

私はずまず不思議に思った日本人たちは、昔話のロジ¹で会った、あの一寸法師であり、桃太郎や金太郎や牛若丸だったので。そしてそれらに共通したひとつの印象があったとすれば、小さな巨人たちという点です。

針が刀となり、お椀が舟となり、箸が權^{かゐ}となるその世界では、かすかな息が台風となり、いくら小さい水の波動でも津波となります。しかし一寸法師はカエルのエサになるほどけつして弱くはありません。小さいから、かえって巨大な鬼にも見つからず、自由に彼を攻略できたのです。結局、桃太郎と同じく、大きな鬼をタイジ²して、宝物を取り返してくる小さな巨人のひとりでした。

^①これらの主人公は、韓国の説話ではよく出会えない人物なのです。学校で日本語によって聞かされた話ではなく、何百年の昔から田舎の訛^{なま}りことばで伝わってきた韓国の説話には、小さい子供や小人が自分より大きい大人や巨大な鬼を打ち負かす話はありませんでした。そもそも一寸法師のような縮小された人間が出てくる「小人」の話はそう多く見つかりません。韓国の昔話に登場する代表的なヒーローは、ワキの下にウロコの生えているチャンスウ(巨人)であり、弥勒(山にある巨大な岩)たちです。そしてぶたれればぶたれるほど大きくなるタマゴ鬼神の話はあっても、ぶたれるほどどんどん小さくなる「頭でつか尻すぼみ小僧」のような昔話はありません。

まったく同じ系統の昔話でも、日本のものは韓国のそれとはちがいます。「舌切り雀」と「興夫伝」がそうです。「興夫伝」では、燕^{つばあ}の足を折ってそれを糸で巻いてやりますが、「舌切り雀」ではそれが雀の舌となっているのです。足を折ることと舌を切ることは、その残忍さにおいてもそうですが、想像力の細やかさにおいても比較になりません。

そうみると昔話だけがそうなのでないということに気づくようになります。韓国語には拡大を意味する接頭語はあっても、縮小をあらわすそれはありません。韓国語のワンという言葉は英語のキングサイズのキングに当たる意味なので、これがある事物の名の上につくと、並以上の大きさを表すようになります。ちよつとした日本人観光客も飲み屋で韓国語で話せるワン・デポは特大の杯であり、ワン・ヌンは大きな眼、ワン・ボルは熊蜂のことです。

【A】日本語では反対に拡大の接頭語よりも、縮小をあらわすほうをもっとも一般的なことばづかいになっています。それが日本人の愛用する「豆」であり、「ひな(雛)」であるのです。^③丸い球体の豆は凝縮した宇宙の形です。そのため、何でも豆の字がくつつけば、にわかになさく縮まって、一寸法師になってしまふのです。一寸法師を豆太郎、豆助ともいうごとく、豆本、豆自動車、豆人形、豆皿は普通のものよりみな小さく縮小されたものなのです。時代が変わってローソクがランプになり、ランプがまた電球になっても、やはり豆はあい変わらずその頭について、豆ローソク、豆ランプ、豆電球になるのです。ひなも、またひよこを意味したので、ひな人形、ひな形、ひな菊など、縮小語の機能に使われます。

私が幼いころ、これは自分たちのものとは違った日本のものだという感じを受けたところには、昔話の想像世界であれ、言葉の世界であれ、物の世界であれ、^④きまつて韓国では見つけられない一寸法師の影があったのです。土間の穴に落ちた豆粒を追って他界に行くという日本の「豆話」のように、小さい豆を追っていけば、ひな人形とか盆栽のようなあのすばらしいミクロの世界、独特な日本文化を垣^か間^まみることができるのです。

日本では何かを作ること細工といえます。作るということはすなわち、細かく縮小する工作なのです。それでも気がすまないのが、細工の上になお「小」という文字を加えて小細工^⑤ともいいます。まるで「豆」「ひな」の接頭語ひとつでは足りないかのようになり、小型の赤本を「ひな豆本」と接頭語を重ねて使ったのと同じ例です。そうですから体裁などがぶざまだったりすることを日本語では不細工^{*}というのです。このように縮小されたものは、たんに小^ちっげなものはちがいがい、本来のものよりもっと可愛^{かわ}いもの、もっと力強いものになるということ^⑥で、異様な特色を帯びてくるのです。

日本的な特性が事物を拡大するより、縮小するところにあるという印象が、幼かったときの私の脳裏^③に焼きついたのは、韓国の日常生活用品に比べ、日本のそれがすべて三分の一ほどの比率で縮小されていたからでもあったようです。ご飯を盛る日本の茶碗は、同じ用途に使う韓国のサバルに比べてそうだし、座布団とポリヨがそうで、膳、酒盃、^{*}オウギもほぼ同じ縮小比率をあらわしています。

昔から中国人と韓国人が、日本のことを倭^わ国、日本人のことを倭人^{わじん}とよんでいるのは、^⑦かならずしも日本人の体軀^{たいく}が小柄だからそうしたのではないという気がします。スイフトのあの『ガリバー旅行記』が、サミュエル・パーチェスの旅行記やドイツ人ケンペルの『日本誌』などからヒントを得て書かれたものではないかという面白い研究(ジョンソン、ウィリアムス、北垣らの共著)が出ているのを見ても、ヨーロッパ人にとっても日本が小人の国のように思われていたといえるのです。

^⑧「それは島国だからだ」と、簡単にあの例の風土論を持ちだす人もいます。しかし、日本人の意識のなかに自分たちの住んでいる環境を島国として考える認識が芽生えはじめたのは、近代的な地図がつけられて西欧文明と接触した以後に普遍化したイメージなのです。日本人の特性を「島国根性」という言葉であらわした最初の人は、ヨーロッパを⁵ジュンユウして帰った明治維新後の久米邦武^{くめくにたけ}だといわれています。じつのところ、日本は狭い国、海に取りかこまれた島国として感覚的に捉えられるほど、その国土が小さいわけではありません。大陸に接しているとはいえ世界クツシ⁶の山岳国であり、狭い盆地の韓国より、日本はもっと広びろとした空間、いわば地平線が見える根釧^{こんせん}原野や武蔵野の野をもっている国なのです。

【B】島国という意識が昔から日本を支配していたとしても、日本文化にあらわれている「縮み志向」を、そう簡単に風土論で片づけることはできないのです。同じ島国でも英国の文化型は、まるつきり反対であることを考えてみれば、すぐわかるはずです。彼らが大陸とよんでいるフランス、ドイツに比べて、ものごとのスケールでも、考え方も、けっして小さいとはいえません。むしろ「縮み」ではなく「^{ひろ}拡がり」の文化を志向しているのは、七つの大洋を支配した島国、英国の方なのです。

【C】外部的な事件のせいでやむなく小さなものになったのではなく、日本人の意識の底に「縮み志向」があったからこそ、進んでそうなったのだと考えられるべきでしょう。だから夏目漱石も「葦程な小さき人に生れたし」といったのでしよう。

私が大きくなって、一寸法師のような小人の話は日本だけのものではなく、世界のどの国にも見出せ、しいて探してみれば中国にも、また韓国にも二、三の例を見つげられることや、トンブソンの『説話文学索引』⁷によればT540-T549の異常誕生のひとつとして分類されている話だということを知ってからも、かえって幼いときに焼きつけられた一寸法師と日本文化の関係は、いつそう強く密着して発展していったのです。

西洋の小人は日本のそれとはちがって精霊と関係があるのだとか、一寸法師の場合のように小さいがゆえにむしろ強いという とはちがうとかの内容の比較よりは、まったく同じ「小人の話」でも、それがその国で他の話より、いかによく好まれているか、もしくはいかに多く知られているかを明らかにする方がより重要なのです。そしてそれは民俗学者ではなく、子供たちに聞いてみるべきでしょう。一寸法師が日本的だとのシヨウコは、他ならない異邦の八つの子供にまでも、それが知られているという事実だけでじゅうぶんなのです。

(李御寧^{イオウニン}の文章より)

*「興夫伝」：韓国の昔話をもとにした小説。主人公が足を折ったツバメを助ける。

*赤本：江戸時代に刊行された、昔話を書かれた書物。

*酒盃：酒を飲むための器。

*T540-T549：アメリカの民話学者ステイス・トンブソンによる物語の分類番号。

問一 —— 線部1〜8のカタカナの部分の漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えなさい。

問二 —— 線部①「これらの主人公は、韓国の説話ではよく出会えない人物なのです」とありますが、これは韓国の説話のどのような特徴を述べていますか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 韓国では、日本のように知恵を使って相手を打ち負かす主人公は登場しない。

イ 韓国では、日本のように主人公がどんどん大きくなって敵を倒すことはない。

ウ 韓国では、日本のように仲間と協力せず一人だけで活躍する主人公はいない。

エ 韓国では、日本のように主人公が自分より大きな相手を倒すような話がない。

オ 韓国では、日本のように巨人や山にある巨大な岩が主人公になることはない。

問三 —— 線部②「その残忍さにおいてもそうですが、想像力の細やかさにおいても比較になりません」とありますが、これはどのようなことを言っているのですか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 日本と韓国の昔話との違いは、残忍さと想像力の細やかさを比べてはじめて理解することができるということ。

イ 日本の昔話の方が韓国の昔話より残忍で、細やかなものへ目を向ける想像力も感じることができるということ。

ウ 日本と韓国の昔話は、それぞれの文化を背景に持っており、残忍さだけで比較することはできないということ。

エ 日本の昔話からは、韓国の昔話には存在しない残忍で細やかな小人の文化を読み取ることができるということ。

オ 日本の昔話の想像力豊かな描写を韓国のもものと比べても、文化的に優劣を判断することはできないということ。

問四 【A】〜【C】にあてはまることばとして適当なものを次のア〜カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
(同じ記号は二度使えません。)

ア まして イ かりに ウ しかし エ ところで オ いわば カ また

問五 —— 線部③「丸い球体の豆は凝縮した宇宙の形です」とありますが、このようにたとえることで何を表していますか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 広大な宇宙を豆の中に閉じ込めるくらい、小さくても大きな可能性を秘めていることを表している。

イ 宇宙のような深い真理を意味するくらい、昔話に登場する豆に大きな価値があることを表している。

ウ 際限ない宇宙を豆のように目に見える形にすることで、一寸法師の強さが際立つことを表している。

エ 昔話に登場する小人にとって、小さな豆も宇宙に匹敵するくらい大きな大きさであることを表している。

オ 球体の豆だからこそ、長い歴史のある昔話を宇宙のように包み込むことができることを表している。

問六 —— 線部④「きまって韓国では見つけられない一寸法師の影があったのです」とありますが、ここから、筆者は日本と韓国の文化のどのような点に違いを感じていますか。最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

ア 韓国では、想像の世界や言葉や物の世界の中で、日本よりも独特の文化を持っている点。

イ 韓国の昔話も道徳的であるが、日本の昔話には誰もが共感できる教訓が含まれている点。

ウ 昔話だけでなく、日本には韓国にない、小さなものに重きを置く文化が存在している点。

エ 韓国の昔話の中で人々の生活が描かれることはないが、日本では丁寧に描かれている点。

オ 日本のように小さなものが活躍する文化は、韓国では言葉の世界でだけ見受けられる点。

問七 —— 線部⑤「小細工」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「細工」と同じように、「小」という語を語頭につけることができる熟語を次のア〜オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 装備 イ 義理 ウ 意気 エ 程度 オ 海原

(2) 「開拓」につけることができる接頭語を考え、その接頭語を使った熟語の例を一つ、三字で答えなさい。

問八 ——線部⑥「異様な特色を帯びてくるのです」とありますが、筆者が「異様」だと考える理由として適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぶざまで不細工なもののほど力強いものを生み出すことができるという考え方は、普通ではありえないことであるから。
- イ 接頭語を二つ重ねなければより可愛く強いものを表現することができるが、まわりくどく思えるから。
- ウ 小さければ小さいほど力が強くなるという、常識では考えられない法則に従わないと、不細工だとばかりにされるから。
- エ 小さなものを優遇し大きなものは役に立たないという、日常生活では考えられない常識が定着してしまっているから。
- オ 小さくてとるに足りないと思われるような縮小されたものでも、予想とは反対に優れたものとして扱われているから。

問九 ——線部⑦「かならずしも日本人の体軀が小柄だからそうしたのではないという気がします」とありますが、筆者がこのように感じる理由を次のようにまとめました。() に入ることを本文のことはを使って十五字以内で考えて当てはめ、文を完成させなさい。(句読点、記号も字数に含めます。)

日本が小人の国だと思われていたのは、日常使われているものが韓国と比べて () ているからである。

問十 ——線部⑧『それは島国だからだ』と、簡単にあの例の風土論を持ちだす人もいるでしょう」とありますが、筆者がその風土論を否定するのはなぜですか。本文のことはを使って五十字以内で説明しなさい。(句読点、記号も字数に含めます。)

問十一 ——線部⑨「かえって幼いときに焼きつけられた一寸法師と日本文化の関係は、いつそう強く密着して発展していったのです」とありますが、これを説明したものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 「縮み」ではなく、「拡がり」の文化を志向しているのは、同じ島国であっても、英国ではなく日本の方だということ。
- イ 日本人の志向を表すからこそ、一寸法師をいつそう日本文化と結びついた日本的なものとして感じているということ。
- ウ 一寸法師が大きさに比例した強さを持っているかどうかは、日本と西洋の説話の内容を比較すれば分かるということ。
- エ 小人の物語がその国で他の話よりいかによく好まれているかが、その説話の知名度に大きく関わっているということ。
- オ 異邦の子供にまで一寸法師という昔話知られているという事実こそが、文化の比較において重要なのだということ。

問十二 に入ることばとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 逆説
- イ 反論
- ウ 批判
- エ 強がり
- オ 仮説

問十三 本文に書かれている内容として正しいものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の昔話は世界のどの国でも見られない特有の話である。
- イ 事物を拡大するよりも縮小するところに日本の特性がある。
- ウ 韓国語に拡大や縮小を意味するような接頭語は存在しない。
- エ 日本の昔話に見られる小人の話は日本だけのものではない。
- オ 西洋の小人は日本のものとはちがって最後には大きくなる。

問十四 この作品の表題として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 昔話の魅力
- イ 縮小化する小人文化
- ウ 縮み志向の日本人
- エ 島国根性の日本文化
- オ 小さな巨人

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

子どもたちにとって、おとなという存在は、ひどく身勝手な生きものに映るらしい。このあいだも、小学校の先生から、子どもたちの詩を見せてもらったのだが、

ぼくがコーヒーちゃんをわったら
 おこらはったのに
 かあちゃんがわったら
 わろてはった

これと同じ趣旨の詩が、いくつもあつたのには、驚いた。それも、この年の一年生に限ったことではなく、毎年、子どもたちが、自分で文字が書けるようになり、文章にすることができるようになると、必ずはじめに、こんなことを書くのだそう。

その先生は慥然たる面もちであった。三年生の子どもたちが、十人ちかく集って話しあっていたときだという。

「うちのとうちゃんは、子どものころ、学校の成績は、ぜんぶ5やったそうや。」
 それから、また別の子どもは、

「うちのかあちゃんは、勉強せえ勉強せえといわれなくても、ちゃんと予習復習をしたそうや。」

この勉強せえ、といわれることは、いまの子どもたちにとって、大いにアタマにくることらしい。滑川道夫も語っていたが、学校から帰ると、まず母親が勉強しろといい、夕方、父親が会社から戻ってくると、交替して勉強しろという。にもかかわらず子どもたちの両親は、みんな、勉強せえといわれなくとも、自分から進んで学習したのだそう。また、ある子どもは、

「夜は早うから寝て、朝は早うおきた。起こされなくても、自分で目をさましたそうや。」

そのように親たちが言っているという。こうして話し合っているのを聞いていると、十人ちかくの子どもたちの両親は、すべて優等生であり、積極的に勉強し、また手伝いもした優秀な子どもたちであったような具合になる。なかには、

「うちのとうちゃんやら、子どものときには、おまえらみたいに、こんなにテレビみなんだ——いうて、おこらはる。」
という子どもまで、できたのである。^①そのころ、テレビがあつたかどうかは、誰だつて、すぐわかることである。

「ぼくらに、わからないのやと思うてるのやろか。」

親に対する不信感は、まず、このへんから湧いてくるのだと、その先生が、話してくれた。^②そういうことがあつたあとで、わたしは、中学生たちと対談する機会をもつたが、彼らは、ひとしく母親のことを、「うちのオバハン」とよび、父親を「オヤジ」と呼んでいた。

「うちのオバハン、むちゃなことばかり言いよる。」

これが彼らの結論であつた。

「ごほんというものは、しつかり噛んでたべるものや。」

テレビを見ながら夕飯をたべていると、いつも注意される。ところが、母親が、うっかり寝すごして朝飯の仕度がおくれたときはどうだ。

「なにをグズグズしとるねん。さつさと食べて学校へ飛んでいき。遅刻するやないか。」

まるで追いたてるように、いそがせるのだ。

「ほんまに、中年のオバハンのいうことは、あてにならんもんや。一夜あけたら、まるで違うことをいいよる。」 **A** 性があらへん。」

彼らは、すべて同感同感というように、うなずきあつていた。

「じぶんが朝寝をしたら、正直にそない言うたらええのに。そやから女というもんは、あさましいんや。」

これではどちらが大人なのか、親なのか、子どもなのか、わからないような口ぶりなので、わたしがいささか、あつけにとられていると、

「そやけど、センセとこの子やらは、ええやろな。」^③

こんどは、ほこ先が、わたしの方にむいてきた。「どうしてだね。」わたしが、たずねかえすと、

「センセは子どものことの専門家やろ。そやから子どもに理解あると思うな。」

という。彼らは本気で、そう思っているのか、それとも、いくぶんひやかし半分に、そう言っているのか、わたしには、わからなかったの

で、^④慎重であつた。

「そうだろうか。」

「ゼツタイそうやと思うな。ぼくらとも、こない気楽に話してくれるやないか。」

そういうと、これがキツカケになつたように、口々に、わが家の父親が、いかに一方的であり^⑤封建的であり、協調の精神に欠けているかについて、具体的に喋りはじめた。

「このあいだも、映画にいくいうたら『子どものくせに何や。おれたちは子どものときには映画みたくないかなんだ』といいよる。」

そのくせに、仕事をたのむときには、「もう子どもやないぞ。一人前の男や、おとなや。」という。

「いったい、ぼくらを大人やと思てるのやろか。子どもやと思てるのやろか。」

自分の都合で、子どもを大人あつかいにしたり子ども扱いにしたりする、^⑥そういう **B** な態度のオヤジどもが、うじゃうじゃしとる。

それが世間や、といきまくのである。そういう身勝手な一般の親たちに比較すると、おそろくわたしは、上出来の部類にはいるはずだと、

いうのだ。わたしは、すこしゴキゲンで、

「わが家の子どもたちに、とくと、きかせてやりたいものだ。」

と、いい気分であつたが、一方、親たちが、よつてたかつて攻撃されているのを聞くと、わたしも父親族であり、おとなである。

すこし、いまいまして、子どもたちに、とうてい知り得ない大人の世界の実情や、愛情を直接的に素朴に表現できない父親一般の

傾向について、わりあい上手に解説したり、説得したりした。彼らは相当まじめに、うなずいていたから、^⑦わたしの試みは、およそ成功し

たかと思われた。しかし、彼らは帰りぎわ、こういうセリフを残して去っていったのである。

「センセは学者やと思つたら、弁護士も兼業しとつたんやなあ。」

彼らは、わたしを口説の徒だと思つて、ひきあげていったのかもしれない。そういえば、一般論として子どもの心の発達は理解していると思うし、あちこちで発言してきたものの、それは、どうも言葉のうえだけであつたようだ。個別的にあたつてみると、子どもたちの心の動きや行動は理解がたく、わたしなど全くたよりないものだと思つてしまう。

次の詩は、次男の友の四年生のときのものだが、上靴を彼の下駄箱で発見し、ひそかに母親に告げ口したのが、わたしだったのである。

詩A

^①子どもの心の動きのふしぎさに、いささかまいったものだが、この詩には余談がある。どこからどのように流れたのか、^{*}吉岡たすくがテレビで解説してみたり、それに三年生のある国語の教科書にのってしまったのだ。教科書会社から、記念のアルバムと印刷のできあがった教科書をもたらってきた次男は、ひどく浮かぬ顔をしていた。

「なにが、気にいらんのや。」

「アホらして、ものもいえんわ。おとないうたら、ゼンゼンわかつたらん。」

彼がさしだした教科書を、ひらいてみて、わたしも唾然となった。彼が不信感を抱くのも無理はない。次男の詩は、みごとに共通語化されて、あざやかな変容をとげていたのである。

バカらしいが、敢えて引用する。教科書というものの正体が、すこしでもわかつていただければ、ありがたい。

詩B

(中川正文『現代童話Ⅱ 口説の徒』)

*滑川道夫：教育学者。 *口説の徒：口先だけ達者で実行力を伴わない者のこと。 *吉岡たすく：児童文化研究者。テレビの教育相談番組で活動した。

問一 ―線部①「そのころ、テレビがあったかどうかは、誰だって、すぐわかることである」について、この作品は55年前に書かれたものですが、この表現に込められた筆者の心情を説明したものと最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

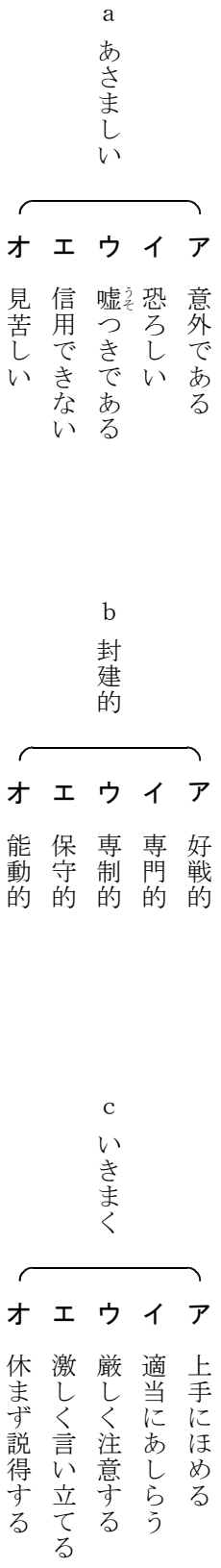
- ア 父親が子どもの頃にテレビがない家庭は多かったが、その代わりとなる娯楽があったことに嫉妬しどしている。
- イ 父親が子どもの頃にテレビがあったことは明白であるのに、あからさまな作り話をするために呆あきれている。
- ウ 父親が子どもの頃にテレビはなかったため、そのことで説教する資格は当時の大人にはないことを怒っている。
- エ 父親が子どもの頃にテレビがなかった苦労を悟られないように、見栄みえをはってしまいう気持ちに共感している。
- オ 父親が子どもの頃にテレビがなかった苦労を悟られないように、見栄みえをはってしまいう気持ちに共感している。

問二 ―線部②「そういうこと」の内容として適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもの頃の武勇伝を両親から交互に聞かされることの無意味さについて、小学校の先生から聞いたこと。
- イ 親に理不尽なことを言われたことがきっかけで信用できなくなったという話を、小学校の先生から聞いたこと。
- ウ 親が理想としている勉強法を自分たちの経験に基づいて話すことの大切さを、滑川道夫さんから聞いたこと。
- エ 学校に通っている時には誰もが親に勉強を強要された経験があるという話を、滑川道夫さんから聞いたこと。
- オ 父と母がそれぞれの立場で心配してくれたという話を、集まってもらった子どもたちから聞いたこと。

問三 A に入る二字の熟語を考えて答えなさい。

問四 ―線部 a 「あさましい」、b 「封建的」、c 「いきまぐ」の意味として適当なものをそれぞれの語群ア～オから一つ選び、記号で答えなさい。



問五 ―線部③「そやけど、センスとこの子やらは、ええやろな」とありますが、このように言った理由を説明したものと最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 以前に注意したこととつじつまの合わないことを言って聞かせようとする親と違って、大人の意見を押しつけることなく、子どもたちに理解を示してくれると思ったから。
- イ 言うことを聞かせるために、自分の意見を強引に押しつけることがあったとしても、最後には子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作ってくれたと思ったから。
- ウ 自分の身の周りにいる大人たちは、勉強させるために無理難題を押しつけようとするが、子どもの専門家であれば、納得できる正しい勉強法を教えると思ったから。
- エ 担任の先生は両親と同じように筋の通らない論理で自分たちを言い負かそうとするが、この先生のクラスになると、成績のことを言われなくて済むようになると思ったから。
- オ 自分の周りの子どもたちはどの家庭でも同じように両親に注意され続けているが、先生の子どものみだけはこれまで誰にも注意を受けることなく過ごしていると思ったから。

問六 ―線部④「慎重であった」とありますが、このときの筆者の様子として適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 嫌われないように、念入りに事を運ぼうとする様子。 イ 本当に信じてよいか分からず、素直に喜べない様子。
- ウ 話の結論が分からないので、不安になっている様子。 エ うれしさを悟られないように、表情を崩さない様子。
- オ さらに信用してもらおうと、次のことばを選ぶ様子。

問七 B に入ることばとして適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不自然 イ 不機嫌 ウ 不勉強 エ 不気味 オ 不安定

問八 ―線部⑤「わたしの試みは、およそ成功したかと思われた」とありますが、ここでの「わたし」の心情を次のように説明しました。

(a) (c) に入る適当なことばを、それぞれ本文から探して当てはめ、文を完成させなさい。

問九 ―線部⑥「センスは学者やと思ったら、弁護士も兼業しとったんやなあ」とありますが、どのような思いを抱いてこのように言ったのですか。それを説明したものと最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 学習に関する知識を持っていてだけでなく、親との間も取り持つてくれることに対する感謝の気持ち。
- イ 学校で勉強を教えるだけでなく、弁護士としても活躍できる力を持っていて先生に対する尊敬の念。
- ウ 子どもの専門家で味方だと思っていたのに、大人側の意見で自分たちを説得したことに対する皮肉。
- エ 機転を利かす仕事についているのに、他の大人と同じことしか言わないことに対するいらだち。
- オ 学校でしか働くことができないと思っていたのに、別の仕事も兼ねていたことに対する感嘆の思い。

問十 本文中の**詩A**・**詩B**には次の詩が入ります。これについて、あとの問いに答えなさい。

詩A

五足の上ぐつ

さんかん日に
 おかあちゃんがきて
 帰るとき、
 ぼくのげたばこをあけたとたん、
 「ひやー、上ぐつ、いっばいあるやん。すててしまい。」
 と、いうたやろ。
 ぼくは、それいわれるのん、ひやひやしてたんやで。
 なんでかと、いうたら、
 二年からの、上ぐつ、げたばこに、ためててん。
 ぼくの思いでが、いっばいある上ぐつやし、もったいない。
 奈良先生にも、いわれたんやけど
 すてへんかった上ぐつやねん。
 いちばんぼろぼろのは
 三カ所ほど、でかいあながあいてるけど、
 およめにいった
 千賀先生とも、遊んだくつや。
 運動場も走つたし
 雪の上もふんだし
 くつふみもしたし
 勉強もしたし
 ぼくのシンボルや。
 今のくつも、もうあかんようになったけど、
 運動会の日まで、はいてやったし
 また
 ためとくねん。
 そやし、
 「すててしまい。」と、いわんといてや。

詩B

古い運動ぐつ

おかあさん、
 じゅぎょうさんかん日に、
 ぼくのげたばこをあけたとたん
 「まあ、古い運動ぐつがとつてあるのね。すててしまいなさい。」
 と言ったでしょう。
 ぼくは、
 それをいわれるのを、ひやひやしてたんだよ。
 なぜかというと、
 ぼくの思い出がいっばいあるくつなんだよ。
 二年生のときのくつなんだよ。
 三カ所ほど、大きなあながあいているけど、
 よその学校へかわられた中野先生とも遊んだくつなんだ。
 暑い運動場もかけまわつたし、
 雪の上もふんだし、
 野球のときにもかつやくしたし、
 ぼくのたからものなんだ。
 今のくつも、もうだいぶ古くなつたけど、
 去年の運動会で、
 二とうをとつたくつだし、また、ためとくんだ。
 だから、
 「すててしまいなさい。」
 なんて、
 かんたんにいわれては、こまるんだよ。

(1) — 線部⑦「子どもの心の動きのふしぎさに、いさかまいったものだが」とありますが、**詩A**を読んで筆者がどのように思ったのはなぜですか。三十字以内で考えて答えなさい。(句読点、記号も字数に含めます。)

(2) **詩A**・**詩B**について、X・Y・Zの三人が話をしています。I・IIにあてはまることばを考えて答えなさい。

- X 「タイトルこそ変わっているものの、どちらの詩も同じ内容じゃない？」
- Y 「いや、全然違うよ。まるで印象の違うものになっているよ。」
- Z 「そうね。特に表現が方言から **I** に変わっているのが気になるな。」
- Y 「それだけじゃないよ。『二とうをとつた』と体験の内容も変わってるよ。」
- X 「ほんとか。彼にはそれよりも、**II**の方が大事だったのに。
浮かない顔をするわけだ。」
- Z 「そうだね。教科書というものの正体が何なのか、考えさせられる話だね。」

問十一 — 線部⑧「教科書というものの正体」とありますが、筆者は教科書の「正体」とはどのようなものだと考えていますか。これを説明したものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもが工夫をこらして書いた表現をなくしても、読みやすさを優先してしまっているもの。
- イ 子どもの考えていることに目を向けずに、大人にとつて都合のよいものに変えてしまっているもの。
- ウ よりよい作品にしようとするあまり、作品を採用された子どもの心を傷つけてしまっているもの。
- エ オリジナリティーをなくすことで、作品を作った本人が伝えたかった内容からずれてしまっているもの。
- オ 具体的な表現に書き直すことで匿名性が失われ、全国に個人情報を広めてしまっているもの。

1	ロジ
2	タイジ
3	脳裏
4	オウギ
5	ジュンユウ
6	クツシ
7	索引
8	ショウコ

問二

問三

問四
A

B

C

問八

問五

問六

問七
(1)

(2)

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三

問十四

問一

問二

問三

問四
a

b

c

問五

問六

問七

問八
a

問八
b

問八
c

問十
(1)

問十
(2)
I

問十
II

受験番号
得点

1	ロジ	路(露)地	5	ジュンユウ	巡遊
2	タイジ	退治	6	クツシ	屈指
3	脳裏	のうり	7	索引	さくいん
4	オウギ	扇	8	ショウウコ	証拠

問二 エ

問三 イ

問四 A

問五 ア

問六 ウ

問七 (1) ウ

問七 (2) 未経験

問八 オ

問九 エ

問十 C

問十一 オ

問九 ほぼ同じ

問十 縮小比率で縮小され

(別解) 三分の一ほどの比率で縮小され

た	、	島
以後	近代	国と
だから	的	して
。	な	て
	地	考
	図	え
	が	る
	作	認
	ら	識
	れ	が
	て	芽
	西	生
	欧	え
	文	は
	明	じ
	と	め
	接	た
	触	の
	し	は

問十二 イ

問十三 ア

問十四 イ

問十五 エ順不同

問十六 ウ

問一 ウ

問二 イ

問三 一貫

問四 a

問五 オ

問六 b

問七 ウ

問八 c

問九 エ

(別解) 整合

問八 a

いい気分・ゴキゲン

問八 b

大人の世界の実情

問八 c

愛情

問九 ウ

問十 (1)

く	大
考	人
え	と
て	は
見	違
て	う
い	視
る	点
と	で
思	、
っ	子
た	ど
か	も
ら	も
。	よ

(2)

問十一 I

共通語

(別解)・大人には価値がないものも子どもには価値があると分かったから。
・大人には必要のないものも子どもは思い出として大切にすから。

問十一 II

日常の積み重ねられた思い出

問十一 イ